

事例番号 41

Keywords: 自閉症, 知的障害, タイムエイド, 給食, 障害に基づく困難の改善, 指導目標の達成

1. タイトル

タイムタイマーを使用することで、給食の終了時間に気付くことを目指した事例

2. 事例の対象となる児童生徒について

知的障害を伴う自閉症・11歳

3. 使用する機器と特長

タイムタイマー

4. 使用した機器を選定した理由

タイムタイマー

数字だけではないので、残り時間が視覚的に示すことができる。給食を食べる食堂は、他の学年も一緒に食事しているので、音がならない物を選択した。

5. 指導の内容

給食で使用。教師が給食終了までの時間を伝え、自分で目盛りを操作し、セットする。10分前や5分前にタイマーを指さしながら残り時間を伝える。目盛りがなくなったら、タイマーを提示して、下膳を促す。

6. 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

タイムタイマーを使うことで、残り時間を伝えたときに（デザートを食べたくて）急いで食べる様子が見られたり、下膳の促しにスムーズに応じられることが増えたりした。

7. まとめと今後の課題

周囲の様子が気になってしまうことも多く、教師が言葉掛けや指さしをしないと食事中に時計に意識を向けられないときがあり、自発的に給食の終わりの時間に気付けないことが課題である。

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法－」（2012/3）に記載された内容である。